

ellipse

[エリプス]

TOPICS

交差性デザインカード ～大阪・関西万博でのイベント 「知れば知るほど納得!ジェンダード・イノベーション」から～

吉原 公美 氏

楕円(ellipse)には焦点がふたつあります。男性中心の社会から、女性と男性がそれぞれに中心(焦点)となる社会を目指すという思いを込めて、誌名を「エリプス」と名づけました。



ワ・タ・シ

深津千鶴 FUKATSU, Chizu イラストレーター
東京生まれ。1988年、お茶の水女子大学文教育学部地理学科卒業。在学中に、『週刊朝日』誌上にて「山藤章二の似顔絵塾」特待生となる。広告代理店勤務を経て、1990年より作家活動を開始。書籍装画、CDジャケットなど多く手がける一方、エッセイ執筆、壁画制作などの活動を展開している。



特定非営利活動法人
お茶の水学術事業会

REPORT

夢のつばさ♥プロジェクトニュース

COLUMN

事業会スタッフのイベント参加レポート

INFORMATION

イベント情報

事務局よりお知らせ

事業会スタッフのイベント参加レポート

市川笑也トークイベント

歌舞伎の伝統と革新

—澤瀉屋(おもだかや) 歌舞伎、宝塚、歌舞伎の未来—

【日時】 2025年6月18日(水) 16:45～18:15

【会場】 国際交流留学生プラザ多目的ホール

【主催】 お茶の水女子大学

未来へつなぐ伝統芸能プロジェクト

【参加】 74名

市川笑也トークイベント「歌舞伎の伝統と革新」に参加しました。実は私はバリバリの古典歌舞伎のファンで、スーパー歌舞伎などの新作歌舞伎はほとんど拝見していません。唯一足を運んだのは、1986年、三代目市川猿之助(二代目市川猿翁)創始の第1回スーパー歌舞伎「ヤマトタケル」でした。当時、歌舞伎界に何が起ころのかという期待と古典歌舞伎関係者が抱いた不安とがないまぜになった社会現象とも言える状況を目の当たりにしており、周りの古典歌舞伎愛好者とこぞって観劇し、あーだこーだとお喋りしたことを鮮明に覚えています。ですが、その後新作歌舞伎に興味に移ることは残念ながらありませんでした。講演者の市川笑也(えみや)氏のお名前はもちろん存じ上げておりますし、「伝統と革新」というテーマにも興味はあるものの、何を聴こうかという目的が今ひとつはっきりしない中での参加でした。

早めに会場に入って、まず驚いたのが、参加者に若い方が多いことでした。特に笑也氏のかぶりつきの席に座られた学生さんは、失礼ながら還暦過ぎの笑也氏の前でアイドルを見るような興奮した雰囲気を出しているのです。笑也氏はやはり只者ではないことがよく分かりました。

また、講演の中盤で笑也氏が「この中で古典歌舞伎を見たことのある方はいらっしゃいますか?」とお尋ねになったところ、私を含めて2～3人しか手が上がらなかったことから、初演から約40年の時を経てスーパー歌舞伎・新作歌舞伎がしっかりと根を張っていると感じました。

笑也氏のお話は、歌舞伎界、その後の猿之助一門に入ったきっかけや修行中のエピソードなど軽妙で楽しいものでした。特に印象に残っているのは、三代目猿之助の「江戸時代には歌舞伎は庶民の楽しみであった」という歌舞伎観の紹介です。宙乗りや何役もの早替わりは観客へのサービスの一環ですが、それが江戸時代にすでになされていたことは知りませんでした。庶民の楽しみを現代に持ってくるために、題材と台本を考えたのがスーパー歌舞伎とのこと。私がスーパー歌舞伎を拝見した時に、所謂歌舞伎らしい台詞回しでなく、棒

読みのようなとさえ感じたセリフも、分かりやすく、スピーディーにという意図からであることなど興味深く拝聴しました。

2023年新橋演舞場で上演された「新作歌舞伎 流白浪燦星(ルパン三世)」で峰不二子役をされた際の拵えについてのお話が特に興味深かったので、帰宅後Webで写真を見ました。着物といえば、通常は体の凹凸を無くすよう補正するのですが、峰不二子役ではあえてグラマラスな線を出されていて、お化粧も洋風で、歌舞伎とは少し違うなという印象でした。

話はそれますが、若かりし日の六代目尾上菊五郎丈に対する劇評や先輩役者の声として「あれは歌舞伎ではない」という意味の記述を読んだことがあります。それが今では大正、昭和戦前の大名優の筆頭格です。

伝統はかつて革新であった。あるいは、革新がやがて伝統になる、というのでしょうか。非常に興味深い講演でした。

【後日段】

講演に触発され、2025年9月、京都南座「流白浪燦星(ルパン三世)」を観てまいりました。原作はアニメなどで馴染みがありますし、ストーリーもわかり易く軽快で、歌舞伎の演出も満載。さらに本物の水をバシャバシャと使うなど大サービスで客席は大盛況でした。笑也氏の峰不二子は写真通りの拵えに加え、魅惑的で可愛らしい演技もこれまで歌舞伎では見たことのないものでした。しかも、女優や宝塚ではなく、あくまでも歌舞伎の女方であり、これぞ「伝統と革新」なのだと感激いたしました。

(古庄洋子)

「伝統芸能×未来」プロジェクト(Japanese Performing Arts for the Future(JPAF))は、「日本を知り、世界へ歩む」ために、そして「過去を知り、未来を切り開く」ために、歌舞伎などの実演者やさまざまな専門家を迎えて、伝統芸能に関わる魅力的なイベントを開催しています。HPもぜひご覧ください。
<https://www.cf.ocha.ac.jp/dentogeino/>

